



朝日子だより

吉田高校 進路指導部
H21.6.26 発行
学生編 Vol.3

吉高生のみなさんへ

後輩のみなさんにあてて、大学の様子や、どういった研究をしているのか書きました。是非最後まで読んで、進路を考える上での参考にさせていただければと思います。

三浦 匠 (平成 16 年度 理数科卒業)
東北大学 歯学部 歯学科 在学中



現在学んでいる内容は・・・

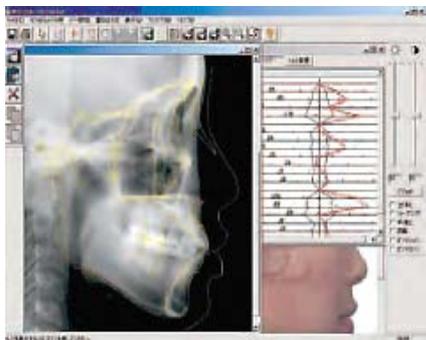
歯

科医師になるために必要となる、基礎的な知識・技術・倫理観などを学んでいます。歯科医師の仕事といえば、虫歯を削って何かをつめる治療がまず思い浮かぶかと思います。歯科医院に通ったことのある人は、あの独特な香りと機械のイヤな音、そして鋭い痛みが脳裏をかすめることでしょうか。恥ずかしい話ですが、私自身入学して学ぶまではそんなイメージしかなくて、ましてや人間にはいったいどんな歯が何本あるのかさえもよく知りませんでした。口の中は普段の生活で身近でありながら、案外知らないものです。自分の歯をまじまじと眺めたことのある人は、よほどの物好き位ではないでしょうか。

話を戻します。口の中の範囲は非常に狭いですが、歯科が関わる領域は挙げればキリがないほど意外と広範囲で、学ぶべきことは実に膨大です。現在は具体的な治療のやり方や、この症例ではなぜそうした治療をするのか、実際に手を動かしながら考える実習をしています。初めてやるのがほとんどなので悪戦苦闘しているわけですが、日々新たな知識が蓄積している感覚を味わっています。当たり前のことですが、やみくもに歯を削っているわけではありません。再発しにくくて、より頑丈で壊れにくくて、さらに見た目もよい適切な形・深さを追求しなくてはなりません。作業のほとんどは数ミリ、もしくはコンマ数ミリ単位です。まさに職人技といった感じなのです。普段用いる用語や器具は実生活ではまず聞かないものばかりなので、今更ながらマニアックな世界だなあとつくづく思います。普段の実習では、1人1人にマネキンと機械



のついた机が用意されていて、先生の指示を受けながら練習をします。マネキンに歯の模型をつけて削ったり、差し歯を作ったり、もしくは2人1組になってお互いの口の中を診査したりします。マネキンはあくまで患者さんを想定しているので、たまに“痛くないですか？”とか話しかけます。傍からみれば、完全に1人コントをしているようにしか見えないわけですが、最近はそれも含めて楽しくやっています。こうした実習を繰り返し、6年次には付属病院で実際の患者さんに接して治療する臨床実習が始まります。その後、国家試験に合格すると晴れて歯科医師の免許を取得することができます。



では1・2年の頃どういったことを学んでいたかを書きます。1年次は全員一般教養科目という高校の授業の延長のような内容を履修します。専門科目関係では病院巡りをしたくらいです。割と自由に時間割を決められます。人気の高い講義は抽選になることもしばしばあります。他学部の人と接する機会が多かったので今考えると結構新鮮です。印象に残っているのは第二外国語のスペイン語で、定期テストが3人組でコントを披露するというものでした。もちろんスペイン語で。テストであんなに楽しめたのは初めてで、もう一回やりたいくらいです。2年次は一般教養が英語と数学だけで、残りは専門科目になりました。専門科目と言っても主に全身についての内容で、基礎医学のようなものです。歯科医師は口の部分だけ知っていればいいと思われがちで



すが、口腔領域の異常が全身の状態と密接に関係していることは多々あります。歯科医師であっても全身のことをよく知らないといけないのです。4人1組による人体解剖実習やマウスと戯れる薬理学実習、顕微鏡を覗いてスケッチしまくる組織学実習などたくさんやりました。その他には、歯を見てその歯がどこに位置する歯であるのかを鑑別する授業があります。歯の形は基本中の基本で、実習をする上でも必須の知識です。今になってその大事さがよくわかってきました。

高校時代、よく先生方から指導されたことで今すごく重要だと感じるものが二つあります。まず、服装と挨拶。吉高の服装検査は厳しかった覚えがありますが、実習をするときにまず言われるのが髪の色と長さ、白衣が乱れていないか、しっかり挨拶できているかです。実習に臨む上で最低限の心構えはしてこいということです。どこに行ってもこれらは不可欠なのだ痛感しています。二つ目は、分からないことはとにかく分かる人に聞くということです。勉強していると当然分からないことが出てきます。自分で調べて解決できればいいのですが、全て自分だけで解決できる人なんていないでしょう。そういう時には先生やよく分かっている友達に聞くのが圧倒的に早いし効果的です。もし本当に基本的なことがよく分からなかったら、正直にそう伝えてみてください。先生方はその熱意にきっと応えてくれるはずですが、私はもう分からないだらけの状態、超初歩的な馬鹿げたことも先生に聞いています。自分の知識がなさすぎて恥ずかしいわけですが、聞くとしたら今の時期しかありません。今はまだまだ歯科医師としても人としても未完成な段階であって、今まさに学んでいる最中なのだから、気にせず聞いた者勝ちだと勝手に思っています。こうした姿勢の大事さは高校時代に知り、今でも重要だと感じています。分からないということは一生懸命学んでいる証拠だと、前向きにとらえるようにしていくほうがいいかと思います。はじめから完璧にできる人なんていないですから。



大学の様子

東北大学について書きます。ほとんどの学部のキャンパスは仙台の青葉山にあります。特に工学部・理学部・薬学部は山頂付近にあるので冬などは通学することすら大変で、原付は必須らしいです。私は一回自転車で行こうと試みましたがあっさり失敗しました。根性あふれる人のみ徒歩か自転車ということで。農学部と医療系学部は街中にあるので割とアクセスが良好。数年後にキャンパス全体が新たに移転して、さらに新しい地下鉄が開通してアクセスがよくなるようです。学生は全国各地から集結しているし、年齢が離れているのに



同学年の人もいるし、とにかく色々な人がいるので会話するだけでも刺激があります。入学したての頃は特にそんな感じでした。最近では自分にそっくりな人が食堂にいて目を疑いました。あれだけ大勢いればそっくりな人は1人くらいいてもおかしくないかもしれませんが。仙台は街の規模も人の多さもちょうどよくて過ごしやすく、自転車があればほぼ事足りる点でも非常に便利です。卒業後は、9割以上の人が研修医となって希望を出した指定の病院に配属されます。その後はそのまま大学に残る人、一般病院の勤務医、開業医になる人が多いです。また、基礎分野の研究者の道に進む人も少数います。

大学入学前と入学後の差は・・・

点書きます。まずは大学の情報収集について。
 高校時代は歯科医師がどういった役割を果たしているのか漠然としたイメージしかなかったし、大学で学ぶ内容についても資料やホームページの情報くらいしか知りませんでした。下調べはできる限りしましたが、実際入学してみないと本当のところは分からない気がします。というか入学しても分からないことも当然あります。紙の上の情報にはやはり限界があります。皆さんの中には、吉高の強歩大会について入学前に聞いた人がいるかもしれませんが、入学して実際に経験してみないと、その厳しさはなかなか分からないでしょう。それと同じような感じです。情報は取捨選択して、あくまで参考程度にするほうがいいかと思います。それよりも、その大



学に入学した人や、自分がめざしている仕事をしている人に直接会って、話を聞くほうが役に立つ気がします。

二つ目は大学に行く目的と手段について。要は“自分が今後の人生で何をどうしたいのか”ということです。私は高校時代、とにかく目先のことをこなすだけで精一杯で、将来どう生きていきたいのかあまり考えていませんでした。そこまで考えるほど大人でなかったし、考える材料も全然なかったからです。そして、将来自分が働くなんで遠すぎてイメージもできませんでした。そもそも、

自分はこうしたいという目的があって、その上で大学へ行くという手段があるものです。しかし、私は大学へ行くという手段が先行してしまって、目的が二の次になっていました。だから少し遅いのですが、入学後にたくさん考えました。高校の友人ともたくさん話しました。その過程で大学に対する捉え方は、個人的にかなり変わりました。それはそれでよかったのですが、高校時代に結論が出ないにしても、考えようとするのができていたらもっと良かったと思っています。私はそうした根本的なことよりも、模試の点数ばかりに気をとられていました。

皆

さんの中で、具体的にこうしたいと決まっている人はそういないはずです。多くの人は、自分が何をしたいのかよくわからない状態ではないでしょうか。上で書いたことと若干矛盾しますが、それが普通だと思います。逆にもう決まっている人はもう一度じっくり考える時間を取ってみてはどうでしょうか。

自分が本当にやりたいことなんてそう簡単に見つかるはずないです。安易に見つかっている人はむしろちょっと怪しいかもしれません。私自身、高校の時よりはおぼろげながら見えてきましたが正直まだよく分かりません。高校・大学を卒業してからの人生のほうが明らかに長いです。高校生のうちから、今後についてスケールの大きい時間軸で物事を考えられたら、どの道に進もうと必ずアドバンテージになるはずです。目的がある、ということはそれだけですごいこと。その目的を目指すために自然と意欲的・自発的に動くことができるからです。自分もそうありたいと入学してからより一層思うようになりました。

高

校では実家と学校を往復する生活がほとんどでしたが、大学に入ってから自分の判断と責任の下で、できることの幅が断然広がりました。それが一番の違いだと思います。今まで経験したことのないことを初めて経験することも多々あるわけで、自分の好みや価値観も結構変わった気がします。何で今までこれをやらなかったのだろうとか、もっと早くに知っておけばよかったなあと気づくことがあります。また、大学は自由に過ごせる時間が高校よりも多いです。受験勉強していた時は、合格後にしたいことが山ほどありました。ところが、いざ自由に何でもしていいとなると自分が一体何をしたいのかよく分からなくなりました。私はそれが色々と考えるきっかけになったし、よかったと思っています。



吉高生へメッセージ

高

校時代、英語を教わった先生が常々言っていました。“大学はあくまで人生の通過点に過ぎず、大事なのはその後” 当時はその言葉の重みがよく分かりませんでした。大学生になった今は本当にその通りだと実感しています。志望校に合格することが人生の最終地点ではないです。日々の課題に追われていると、物事を小さい視点でしか見られなくなりがちです。私は人生うんぬんよりも、目先のことをいかにしてクリアするかでとにかく頭がいっぱいになっていました。勿論普段の小テストは小テストで大事です。でもたまには、もっと大きなスケールで考えてみるのもいいでしょう。大抵の事は、とるに足らない小さいことに思えるはず。数学ができなくて赤点を取ってしまった、模試で思ったほど結果が出なかった、小テスト頑張ったのに落ちてしまった、色々へこむこともあると思います。ただ、長い目で見れば大したことではないです。現状をしっかり受け止めた上で、その状況を放置せず、次に頑張ればいだけ。そして、その頑張りの原動力となる目的を持っている人は、絶対に強い。自分は結局何がしたいのか、どうありたいのか、もう一度根本を見つめ直してみてもいいでしょうか。

